

中部山岳国立公園 公園計画変更案の概要

1. 背景

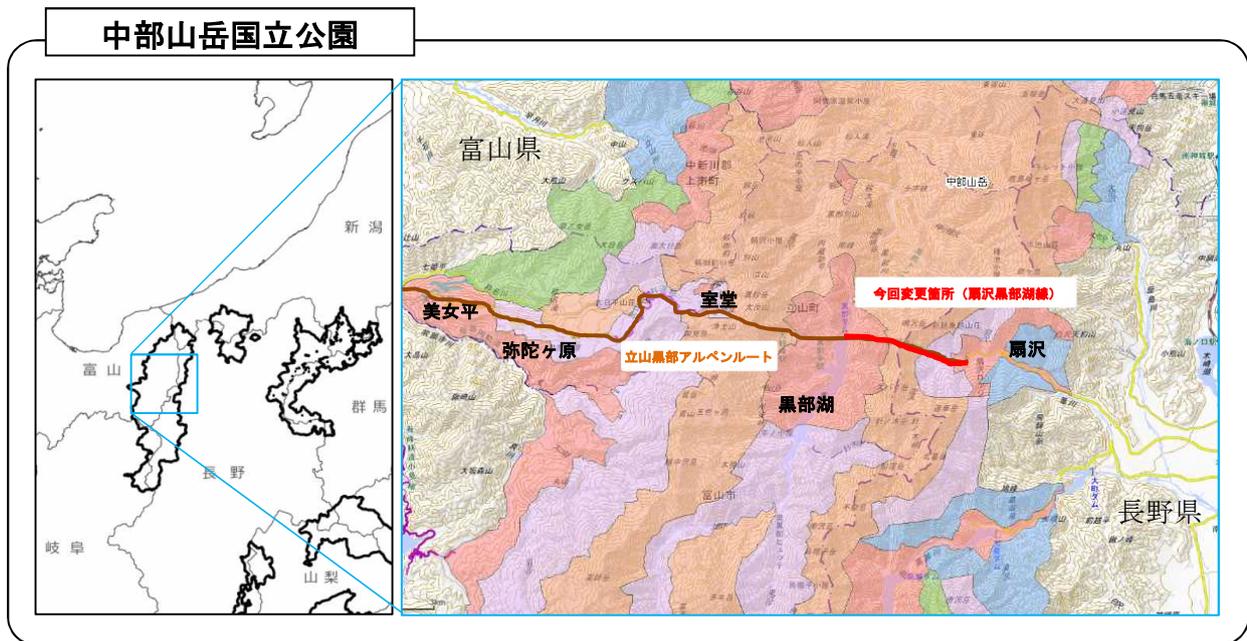
中部山岳国立公園は本州の中央部に位置し、北は白馬岳から南は乗鞍岳にかけて3000m級の高峰が連なる、わが国でも屈指の山岳景観を誇ります。

本公園を横断する形で設定されている立山黒部アルペンルートは、富山県立山地区と長野県扇沢地区を結ぶ交通機関網であり、立山室堂、劔岳などの本公園を代表する景観地に至るルートとして、年間90万人を超える利用があります。

その中でも扇沢地区から黒部湖地区までの区間は、黒部第四発電所建設に際して、昭和31年に厚生大臣（当時）から、公衆の利用に供するよう建設の許可条件が付けられたことを根拠に、現在も電気事業者が維持管理を行い供用されています。

現在運行中の無軌条電車（以下、「トロリーバス」とする。）は、昭和39年の運営に係る鉄道事業の認可を受けたのち、平成4年には扇沢黒部湖鉄道運送施設として公園計画に位置付けられています。

今回の変更は、現在運行中のトロリーバスが平成5年に導入されたものであり老朽化が進んでいることから、電気事業者が新たな設備の導入を検討した結果、トロリーバスを廃止し、電気バスにより供用することの見込みがついたことから公園事業においても、それに対応する事業種を計画することが必要であるため、公園計画の一部変更を行うものです。



2. 変更案のポイント

中部山岳国立公園の中央を横断する立山黒部アルペンルートのうち、扇沢から黒部湖までの鉄道施設（扇沢黒部湖線）について、これまでの鉄道運送施設としての計画から自動車運送施設への計画へ変更します。

3. 変更案の詳細

利用施設計画の変更

[新規計画] 扇沢黒部湖線運輸施設（自動車運送施設事業）

[削除] 扇沢黒部湖線運輸施設（鉄道運送施設事業）